

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計策定業務委託

実施設計（素案）

令和7年11月

鎌倉市 都市景観部 みどり公園課

目 次

1. 業務概要	1
1.1 業務目的	1
1.2 業務対象範囲	1
1.3 実施設計の位置付けとフロー	1
2. 現況調査	2
2.1 現況写真	2
（1）主要入口	2
（2）散策路	2
（3）周辺道路	3
（4）柵	3
（5）サイン	4
（6）排水施設整備予定地	4
（7）急傾斜地	5
3. 設計方針	6
3.1 上位計画の位置付け	6
3.2 散策路・入口部の整備	8
3.3 階段・柵の整備	10
3.4 サインの整備	13
3.5 急傾斜地対策の整備	21
3.6 全体計画図	24
3.7 維持管理方針の検討	25
3.8 事業スケジュール	28

1. 業務概要

1.1 業務目的

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計策定業務は、鎌倉市が令和6年度（2024年度）に策定した「山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計」をはじめとする関連計画や調査結果等を踏まえ、山崎・台峯緑地（都市緑地）に残る豊かな自然環境や横須賀線沿いの低層住宅地の背景をなす樹林地を都市緑地として整備・保全するための実施設計を策定することを目的とします。

1.2 業務対象範囲

山崎・台峯緑地（都市緑地）（鎌倉市山崎字台峯地内 外）8.6ha

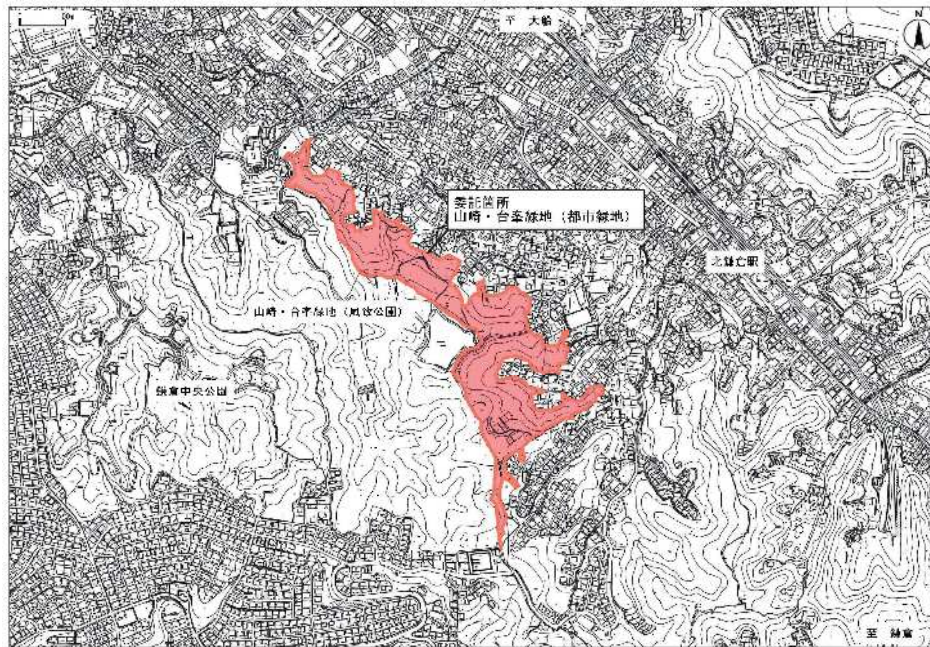


図1.2.1 対象範囲

1.3 実施設計の位置付けとフロー

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計の位置付けとフローを以下に示します。

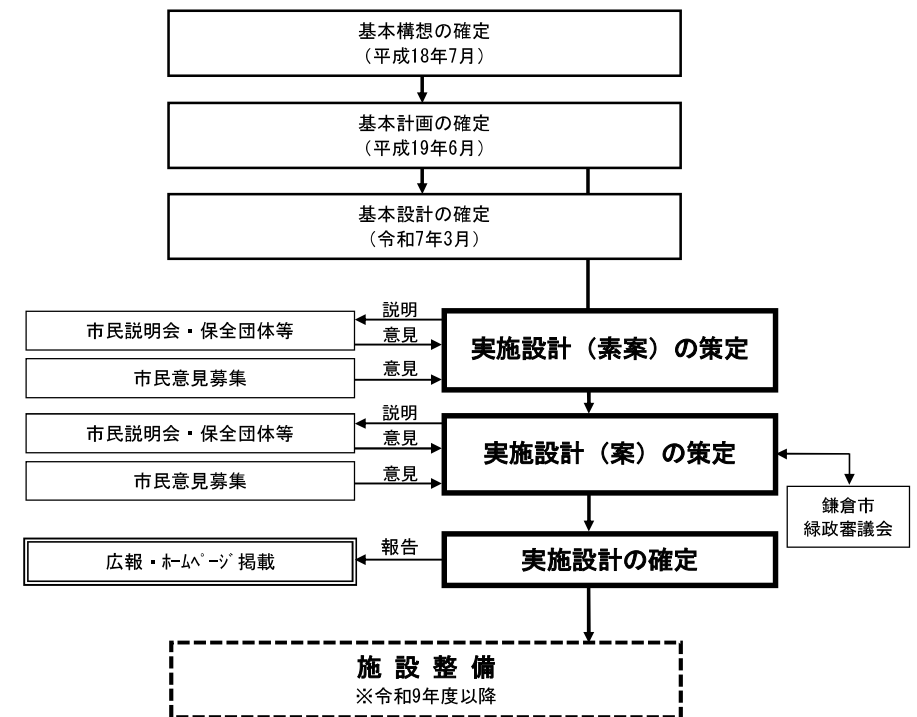


図1.3.1 実施設計の位置付けとフロー

2. 現況調査

2.1 現況写真

整備対象施設の現況写真を以下に示します。なお、現在階段は設置されていません。

(1) 主要入口 各入口部は梶原、山ノ内、台方面に1箇所ずつ点在しています。	(2) 散策路 大半は未舗装の山道であり、一部急勾配箇所が点在しています。	
山ノ内配水池入口	アスファルト舗装	コンクリート舗装（緑地外）
北鎌倉女子学園入口	未舗装	未舗装
山崎小入口	未舗装	未舗装

(3) 周辺道路 山崎・台峯緑地への周辺アクセス道路の多くは狭小です。	(4) 柵 散策路に急傾斜が隣接している箇所には、擬木や木材、鉄線等の柵が設置されています。
 山崎小入口からのアクセス	 擬木柵  金網フェンス
 山ノ内配水池入口からのアクセス  北鎌倉女子学園入口からのアクセス	 ガードパイプ  木製柵
 展望広場への坂道のアクセス	 鉄線柵  鉄線柵

(5) サイン 木製の案内サイン、誘導サイン、園名サインが設置されています。		(6) 排水施設整備予定地 現在は排水設備がなく、ぬかるみが生じています。	
			
案内サイン（山崎・台峯緑地（風致公園））		排水施設整備箇所	
			
誘導サイン（山崎・台峯緑地（風致公園））		排水施設整備箇所	
			
誘導サイン（山崎・台峯緑地（風致公園））			

(7) 急傾斜地

台峯緑地の整備予定地内には複数の急傾斜地が点在しています。

			
急傾斜地箇所①	急傾斜地箇所②		
			
急傾斜地箇所③	急傾斜地箇所④		
			
急傾斜地箇所⑤	急傾斜地箇所⑥		

3. 設計方針

3.1 上位計画の位置付け

実施設計の検討においては、以下の上位計画に基づいて検討を行います。

【基本構想における理念と方針】（基本構想より）

基本構想においては、本緑地の現状、自然環境の評価、上位計画における位置づけと市民要望の把握整理を通じて、「多様な自然環境」、「環境変化への対応」、「景観資源としての価値」「市民意向への対応」を着目点として、以下の基本理念が設定されています。

■基本理念

“山崎・台峯緑地の優れた自然環境を守り後世に伝える”

■基本方針

● 鎌倉市における貴重な資源の保全

① 自然環境の多様性の維持

- ・ 二次林と自然林を含む多様な植物群落と水辺の植物までが見られる豊かな植生環境
- ・ 多様な植栽基盤の上に貴重種を含む多様な動物が成育
- ・ 植生と水環境の保全を中心とした取り組みにより、自然環境の多様性を維持

② 貴重種等の生育環境の維持

- ・ 生態系の上位に位置するフクロウなど多くの動物類の貴重種が成育
- ・ ハンノキ等の樹林としても鎌倉市の中では他で見ることのできない群落

● 鎌倉の都市景観資源としての保全

① 北鎌倉方面からの緑地景観の維持

- ・ JR横須賀線車窓や鎌倉街道の西側に見える斜面林、東側の円覚寺を含む樹林とともに、古都鎌倉の景観形成に重要な役割を果たす景観

② 台峯緑地内の特徴的な景観の維持

- ・ 里山的な景観、湿地や池、ハンノキ林などの特徴的な景観、尾根道から望む円海山方面の眺望、尾根道に残る大径木のサクラなど、鎌倉の風景を体感できる景観

出展：（仮称）山崎・台峯緑地基本構想、（仮称）山崎・台峯緑地基本計画

【保全・活用方針】

基本構想においては、台峯緑地の自然環境の保全のため、以下の方針が設定されています。

■市民利用のための活用方針

- 線と点での利用に限定して活用する
- 活用のための利便施設、管理施設の導入は最小限に止める 等

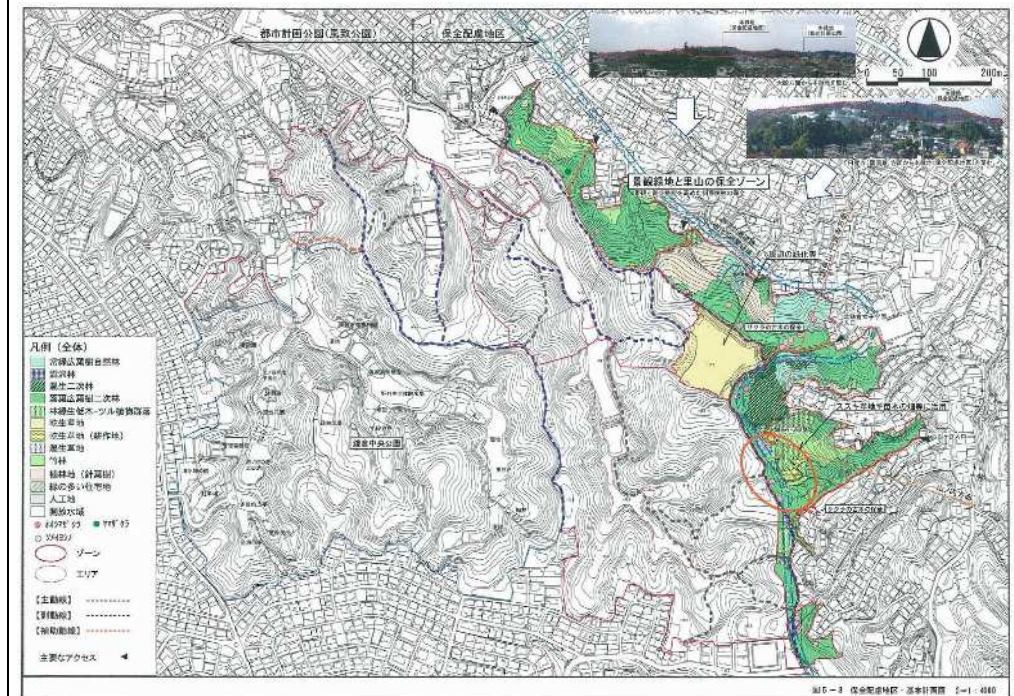
出展：（仮称）山崎・台峯緑地基本構想

【ゾーニング】（基本計画より）

本基本設計の対象範囲は、「景観緑地と里山の保全ゾーン」に位置付けられています。

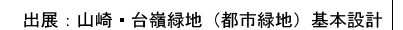
※景観緑地と里山の保全ゾーン

- ・ 北鎌倉の景観を形作る斜面緑地を適切に保全し、尾根筋に残された里山の環境・景観を保全するゾーン
- ・ 尾根筋の一部の区域において、歴史的な経緯を踏まえ、茅場、畑等の再生を行う。



出展：（仮称）山崎・台峯緑地基本計画

- ・ 散策路
- ・ 階段・柵
- ・ サイン
- ・ 展望広場
- ・ 落石防護網
- ・ 植生の維持管理



3.2 散策路・入口部の整備

【整備方針】

- 一部副動線（ツノ坂）を整備（フェンス撤去、階段設置、排水設備設置）します。
- その他の散策路については、現道の維持を基本とします。
- 北鎌倉女子学園入口部は、舗装材が流出しているため舗装による改修整備を行います。

【基本設計に対する主な意見】

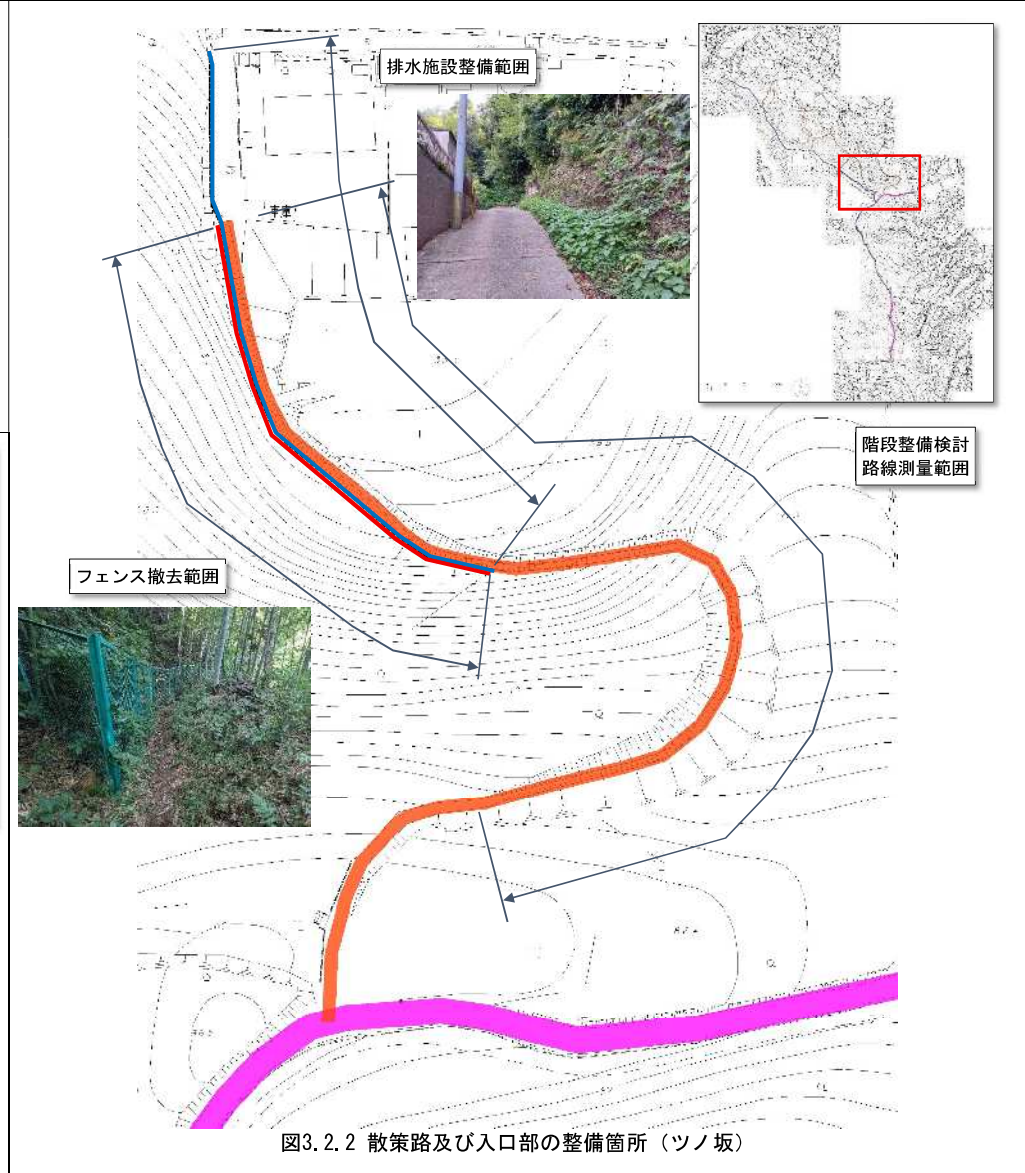
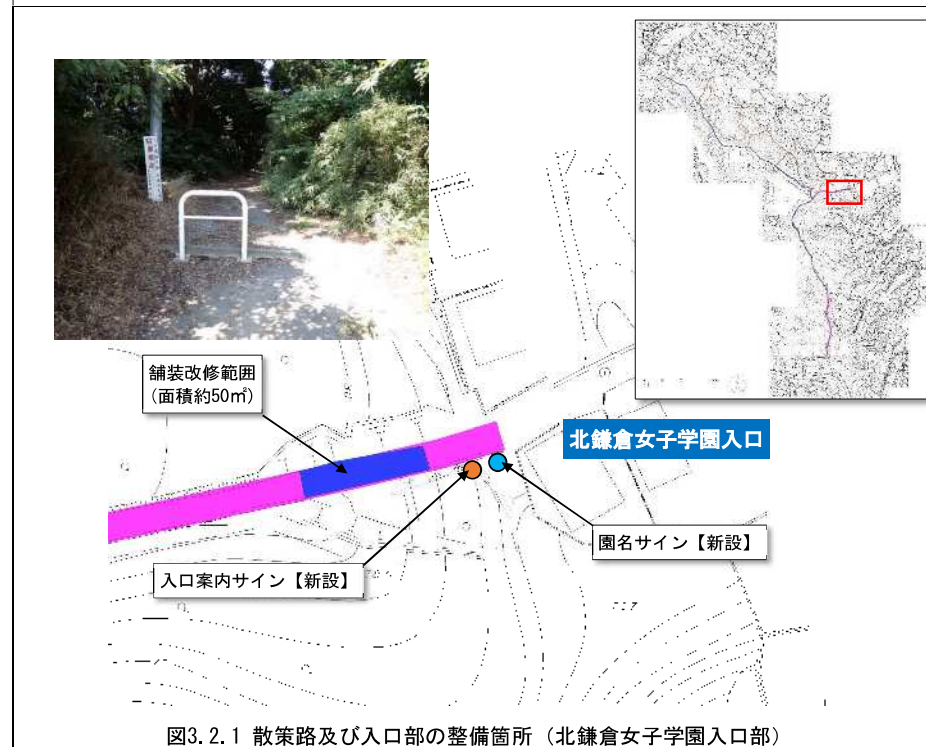
- ・ツノ坂については、フェンスの撤去及び排水整備を行えば、通行しやすさは格段に向上するため、階段設置は不要ではないか。
- ・階段を設置すると降雨等により表土が流出するケースが多いので対策が必要。



【実施設計における整備方針】

- ・ツノ坂においては、階段を設置する延長が必要最小限となるよう、路線測量を実施し、結果に基づき階段の必要性と範囲を検討・設計します。
- ・排水設備については、土留による土砂流出を含め、測量結果に基づき詳細を検討します。
- ・北鎌倉女子学園入口部については、景観性に配慮した舗装を検討します。

※排水施設の工法については、路線測量の結果を基に工法調査中



資料：入口部の表面処理比較

表 3.2.1 入口部表面処理の比較表

名称	砕石舗装	アスファルト舗装	土系舗装
整備イメージ			
排水性・透水性	水はけが良く、排水性が高い。	舗装の種類による。排水性アスファルトや透水性アスファルトなど水はけが良く排水性が高いものもある。	安定剤や固化材の種類による。樹脂等の固化材を利用する場合は、土の透水性を活用することができる。
	○	○	○
景観性	現状と同様に近い雰囲気となる	周辺の緑地空間になじまない空間となる	周辺の緑地空間になじみやすい
	○	△	◎
管理のしやすさ	砕石の転圧・補充・整地が必要となり、場合によっては除草などが必要となる	ひび割れ補充が必要となるが管理はしやすい	表面の均し・締固めが必要となるが、比較的管理しやすい
	△	◎	○
経済性	比較的安価	やや高い	比較的安価
	○	△	○
総合評価	排水性や景観性が高く比較的安価だが、車両や歩行者の通行による砕石の流出などのメンテナンス性に劣る	排水性やメンテナンスは容易であるが、景観性・経済性で劣る	排水性・景観性・経済性が高く、メンテナンス性も比較的高い
	○	△	◎

3.3 階段・柵の整備

【整備方針】

- 階段は急勾配やぬかるみがあり、特に歩きにくい散策路にのみ設置します。
- 柵は破損している鉄線柵がある箇所のみ新設します。
- 材質は安全性、耐久性を考慮したうえで、ボランティア団体と協議、調整を行い、引き続き検討します。

【基本設計に対する主な意見】

- ・ 階段を設置すると降雨等により表土が流出するケースが多いので対策が必要となるのではないかと。
- ・ 自然木の場合は定期的な修繕が必要であり、ボランティアでは対応が困難であるため、市の予算の状況によっては擬木でも仕方ない。
- ・ プラ擬木を使うと破損した場合マイクロプラスチックが流出し、自然環境に影響を与える可能性がある。
- ・ 自然木の検討など、できる限り自然のままを維持できる内容に再考してほしい。



【実施設計における整備方針】

- ・ 階段整備箇所においては、延長が必要最小限となるよう、路線測量を実施し、結果に基づき階段の整備範囲を検討し、設計します。
- ・ 階段・柵の素材については、安全性、耐久性を考慮した上で、ボランティア団体と協議のうえ、詳細を検討します。

※階段の設置位置については、路線測量の結果を基に検討中。

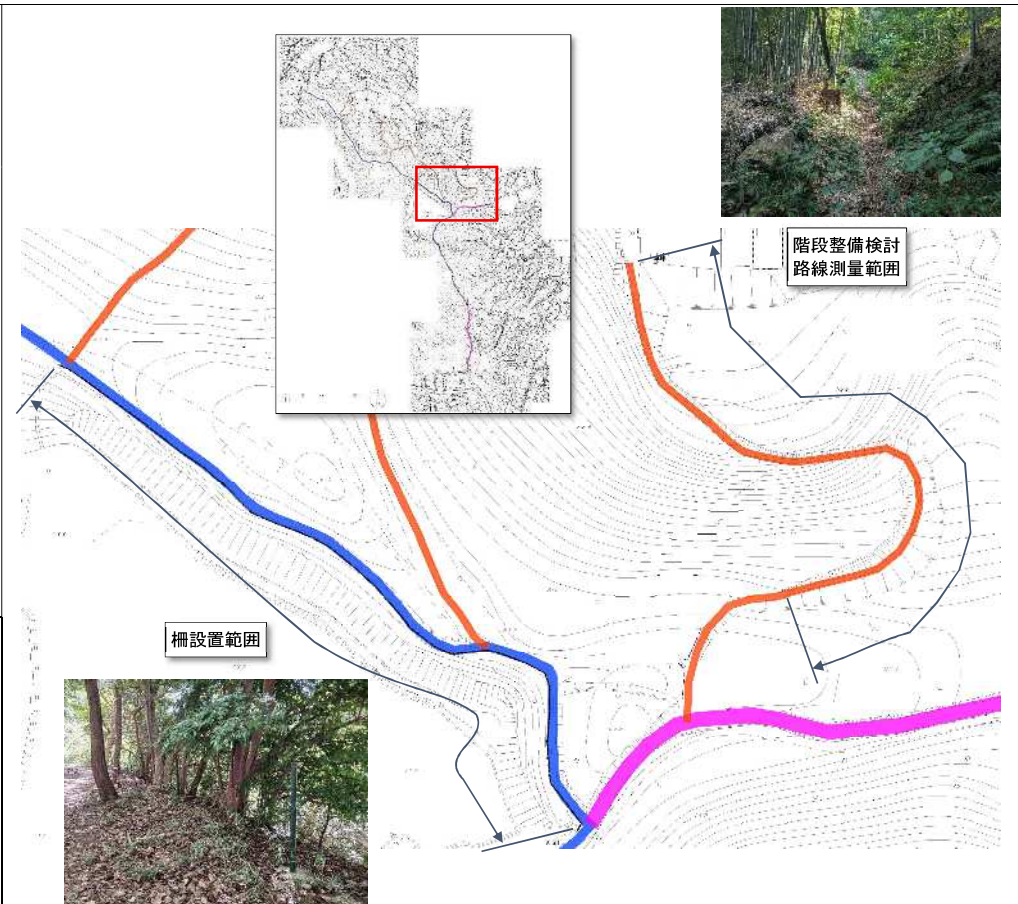
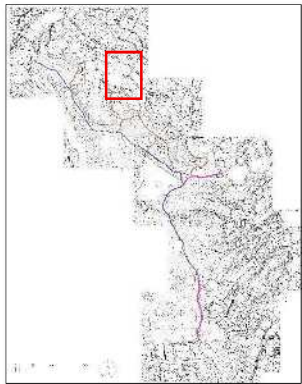


図3.3.1 階段・転落防止柵の整備箇所

資料：階段・柵の素材比較

表 3.3.1 階段の素材比較表

条件	W=0.75m											
タイプ	天然木				コンクリート擬木				ブラ擬木			
イメージ												
規格仕様	素材	天然木（杉材）	形状	ステップφ90×2連 杭φ65×700	素材	鉄筋コンクリート	形状	ステップφ100×2連 杭φ75×500	素材	樹脂（アルミ芯材）	形状	ステップφ100×2連 杭φ60×700
	寸法	φ90(2連)×W750	重量	ステップ部（7kg） 杭部（1.7kg）	寸法	φ100(2連)×W750	重量	ステップ部（28kg） 杭部（5kg）	寸法	φ100(2連)W750	重量	ステップ部（8kg） 杭部（2kg）
景観性	○ 自然景観になじむ素材。 経年によりシルバークレーへと変色する。 天然物のため形状加工自由度が高い。				◎ 自然木の目（樹皮）から型枠制作し、自然木の風合いを表現。 色合いは2色の色を用いて木材のリアルな色を表現。 長期にわたり飽きのこないデザイン。				◎ 天然木の質感を活かしたくぬぎ風の外観が特徴。 自然な景観に溶け込む自然な外観意匠。 都市公園や国立公園でも一般的に使用されている素材であり、エコマークを取得し、環境保全に役立つ製品として認められている。			
耐久性	△ 参考耐久年数：約5～10年程度 耐候性をもたせるために防腐剤注入が必須。 湿度による腐朽に弱く、湿潤地での使用は通常条件より耐久性が落ちる。 火やスプレーなどのいたずらをされた際に補修が不可。				◎ 参考耐久年数：約40年程度 使用頻度にもよるが20年程度で再塗装を行うことできれいな状態を維持可能。部材単位の交換・移設が可能。 ステップ部（横たわる丸太）が2連で上下の丸太が一体となっているため、上下の丸太がズレることがない。				○ 参考耐久年数：約20年程度 芯材にアルミ管を使用し、耐久性に優れている。 飛砂の耐久性も高い。			
施工性	◎ 素材が柔らかいため現場調整が容易であるが、施工時に傷がつきやすく、注意が必要。 軽量なため、現場への搬入・運搬が容易である。				× 横たわる2連形状の丸太に杭を設置し、背面から土を盛り土圧で持たせるシンプルな構造。 2連丸太と杭はボルトやビス等の連結金具も不要なため組立は容易であるが、重量があるため、現場への搬入・運搬が困難。				◎ 軽量で施工がしやすい。 アルミ管を芯材とした中空構造により、コンクリート擬木の約1/7の重量のため、現場への運搬が容易である。 杭とステップは現場で釘打ちして固定でき施工性が高い。			
経済性	◎ 更新頻度がコンクリート擬木、ブラ擬木よりも高くランニングコストがかかるが、高いイニシャルコストは安価。				△ 耐久性に優れるが、製品価格は高い。				○ コンクリート擬木より安価であるが耐久性にやや劣る。			
総合評価	○ 耐久性に劣るため更新頻度も高く、ランニングコストがかかる。 天然木は現地になじむ素材である。				× 自然的な風合いであり耐久性も高いが、重量があるため搬入・運搬を含めた施工が困難。				◎ 自然的な風合いであるとともにランニングコストを含めた費用も比較的安価であり、重量も軽いため施工性にも優れる。 すべり抵抗値は安全の目安とされるCSR値0.4以上。			

表 3.3.2 転落防止柵の素材比較表

条件	2段/擬木仕上げ/歩行者のみ											
タイプ	天然木				コンクリート擬木				プラ擬木			
イメージ					 【くぬぎ】  【焼杉】 							
規格仕様	素材	天然木（杉材）	形状	支柱φ150・横木φ90	素材	鉄筋コンクリート	形状	支柱φ150・横木φ90	素材	樹脂（アルミ芯材）	形状	支柱φ135ビームφ80
	寸法	GLH800×W2,000	曲線形状	○	寸法	GLH900×2,000	曲線形状	△ 条件有り	寸法	GLH800×W2,000	曲線形状	△ 条件有り
景観性	○ 自然景観になじむ素材。 経年によりシルバーグレーへと変色する。 天然物のため形状加工自由度が高い。				△ 他案に比べてテカリや色味の質感が劣る。 肌目（色）については、くぬぎ・焼杉より選定が可能。 ずっしりとした安心感を人に与える。				◎ 独自技術で天然木のリアルな表情を再現。 頭部にキャップを設けることでリアルな質感に近づけている。 都市公園や国立公園でも一般的に使用されている素材であり、エコマークを取得し、環境保全に役立つ製品として認められている。			
耐久性	△ 参考耐久年数：約5～10年程度 耐候性をもたせるために防腐剤注入が必須。 湿度による腐朽に弱く、湿潤地での使用は通常条件より耐久性が落ちる。 火やスプレーなどのいたずらをされた際に補修が不可。				◎ 参考耐久年数：約40年程度 支柱と横木が個別連結であるため、倒木などで破損した場合などスパン単位で横木のみ交換も可能。 再塗装が可能。				○ 参考耐久年数：約20～30年程度 アルミ芯材と樹脂被覆の構造により、沿岸地などでの耐塩害性・耐飛砂性に優れている。			
施工性	◎ 素材が柔らかいため現場調整が容易であるが、施工時に傷がつきやすく、注意が必要。 軽量なため、現場への搬入・運搬が容易である。				× 1本目の支柱部孔に、横木を差し込み2本目の支柱で挟み込む施工。 組立設置後、支柱と横木の目地部をモルタルで埋め、同色塗料で塗装を行うことで、接続面も自然な印象になる。 重量があるため、現場への搬入・運搬が困難。				◎ アルミ芯材により軽量で山間部への運搬や施工が容易。 金具不使用のビーム固定式により工具不要で施工性が高い。			
経済性	◎ 製品費及据付費が安い				△ 製品費及据付費が高い				○ 製品費及据付費は天然木とコンクリート擬木の中間程度			
総合評価	○ 耐久性・施工性にやや難があるが、景観性・経済性に優れる。				× 耐久性・景観性は問題ないが、経済性に劣る。 重量があるため搬入・運搬を含めた施工性に難あり。				◎ 景観性・耐久性・施工性に優れ、経済性も比較的安価である。			

3.4 サインの整備

【整備方針】

- 主・副入口に入口案内サイン、園名サインを設置します。
- 主動線からの分岐部に誘導サインを設置します。
- 展望広場の解説サインは、景観に配慮し、設置不要とします。
- 柵は破損している鉄線柵がある箇所のみ新設します。

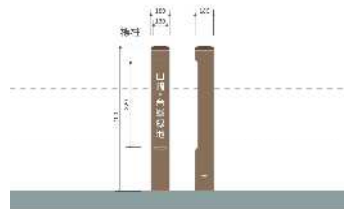
【基本設計に対する主な意見】

- ・案内サインにQRコードを掲示し、動植物の案内ができること。

【実施設計における整備方針】

- ・園名サインを2基設置します。
- ・入口案内サインの盤面修正等については、新規サインの盤面と併せて検討します。
- ・入口案内サインにQRコードによる電子案内を掲示します。
- ・誘導サインは主動線からの分岐部に設置するとともに、入口案内サインのマップに合わせて目的地を修正するための改修を行います。

■園名サイン：主・副入口に設置します。



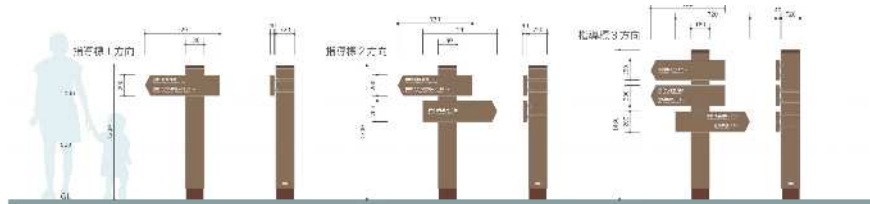
園名サインイメージ

■入口案内サイン：主・副入口に設置します。



入口案内サインイメージ

■誘導サイン：主動線からの分岐部に設置します。



誘導サインイメージ

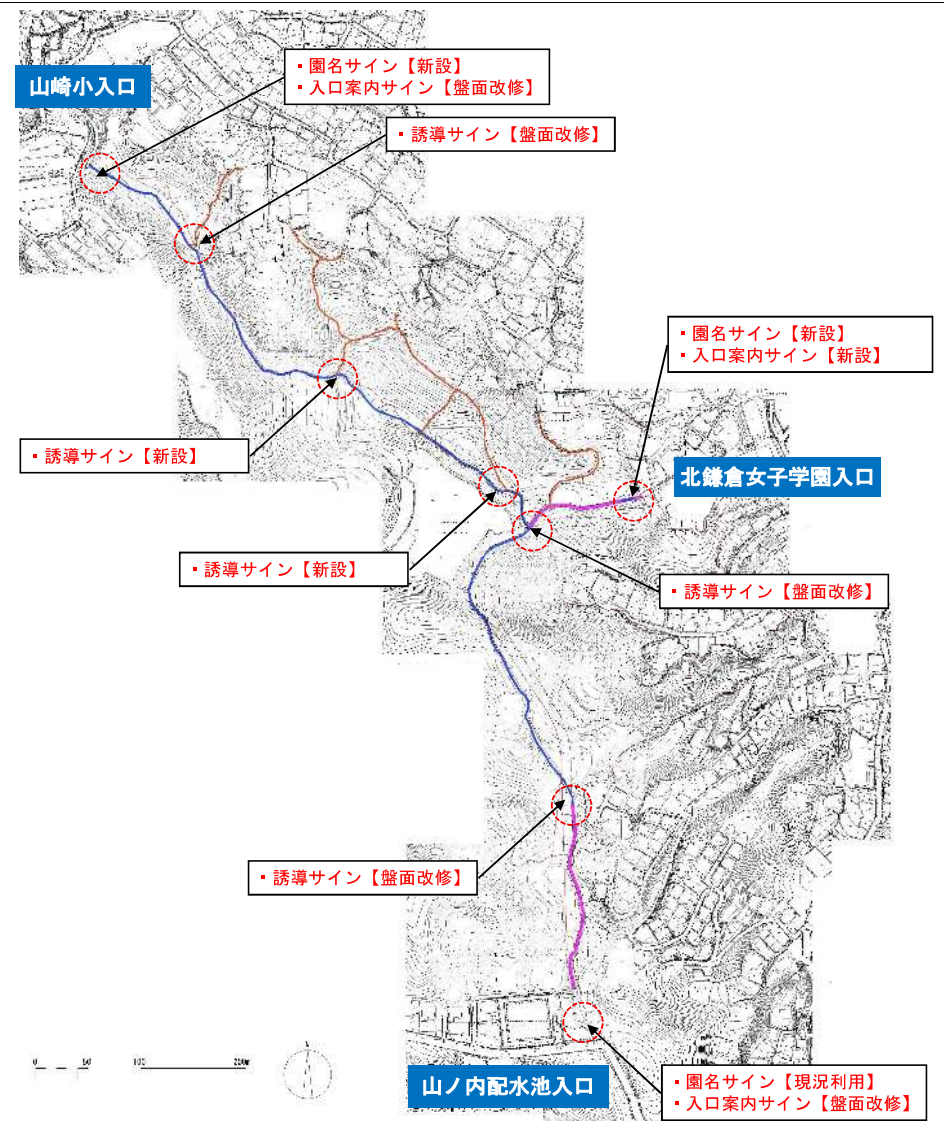


図3.4.1 サイン設置箇所図

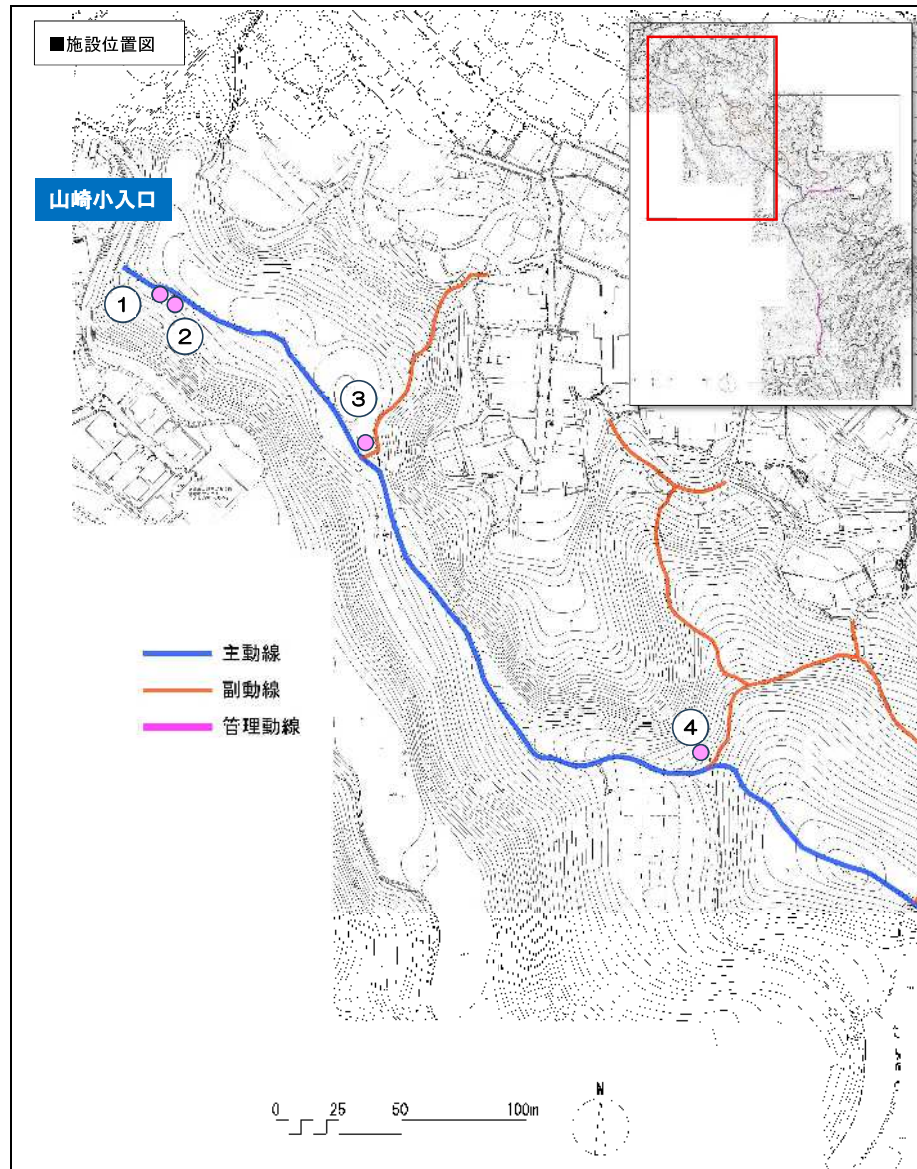


図3.4.2 サイン設置位置

①園名サイン[新設]



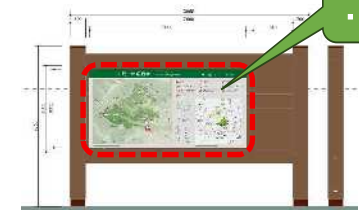
サイン新設
位置の確認



②入口案内サイン[盤面改修]



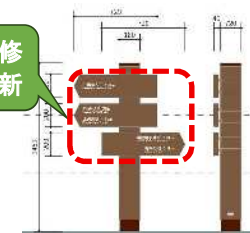
盤面の改修
・情報更新



③誘導サイン[盤面改修]



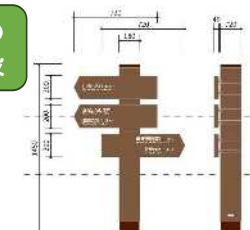
盤面の改修
・情報更新



④誘導サイン[新設]



分岐点への
サイン新設



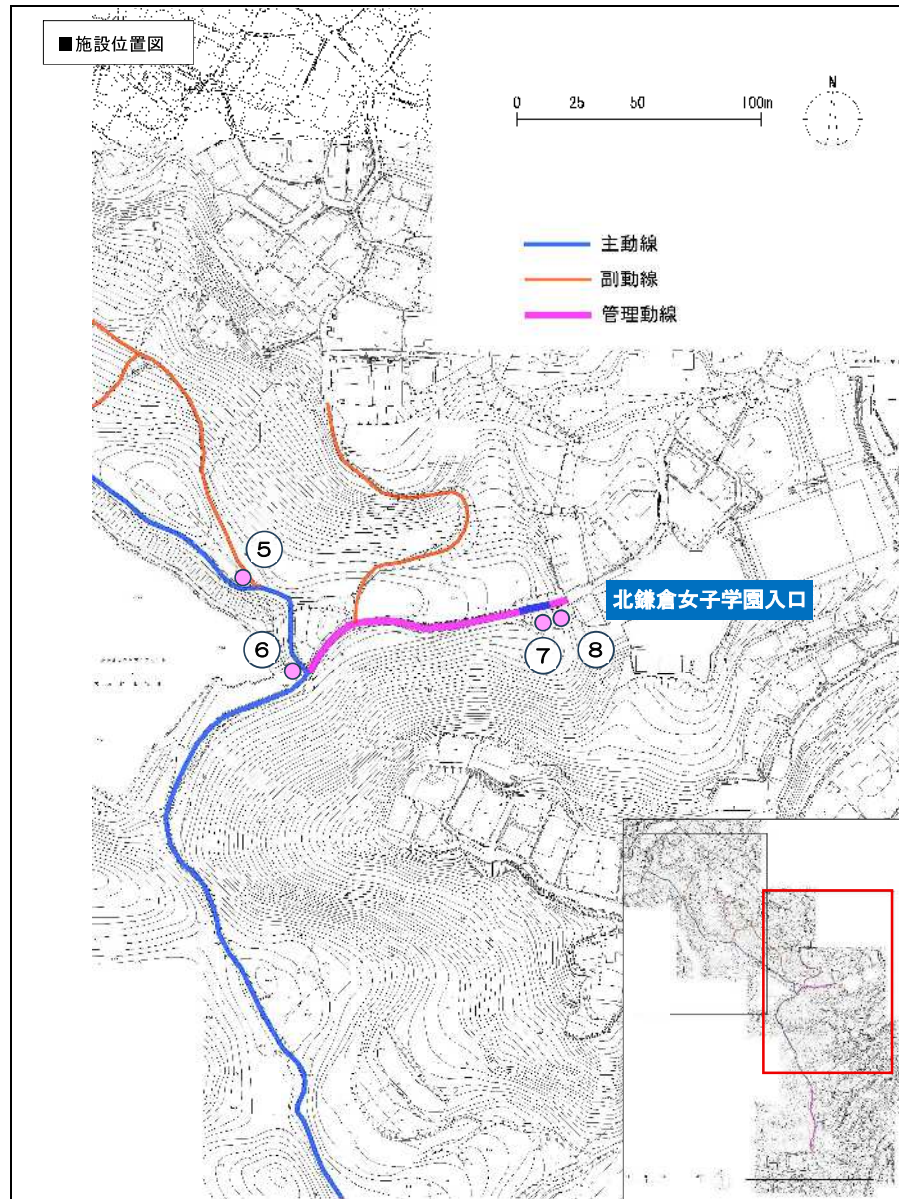


図3.4.3 サイン設置位置

⑤誘導サイン[新設]



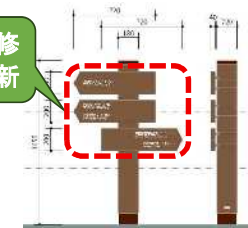
分岐点への
サイン新設



⑥誘導サイン[盤面改修]



盤面の改修
・情報更新



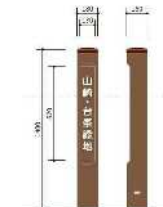
⑦入口案内サイン[新設]

設置位置の検討



⑧園名サイン[新設]

設置位置の検討



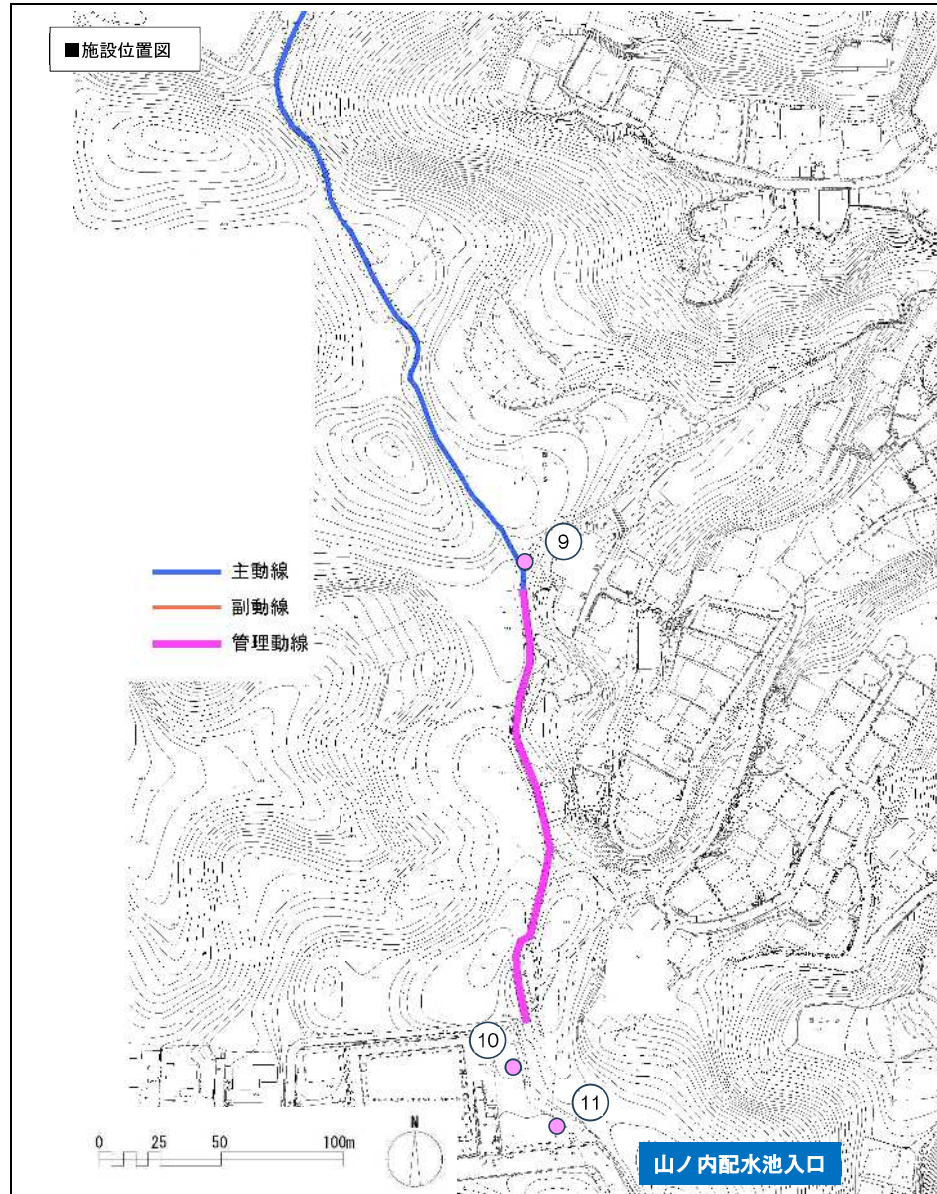


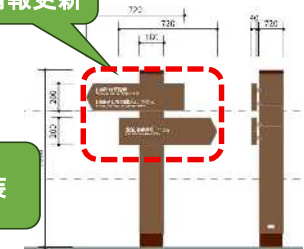
図3.4.4 サイン設置位置

⑨誘導サイン〔盤面改修〕 現況利用



盤面の改修
・情報更新

支柱部の再塗装



⑩入口案内サイン〔盤面改修〕 現況利用



本体の再塗装

盤面の改修
・情報更新



⑪園名サイン 現況利用



本体の再塗装

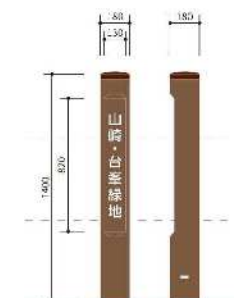


表 3.4.1 サイン新設・改修

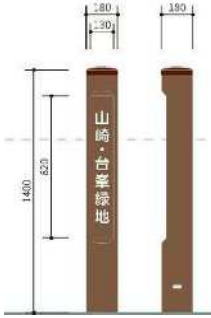
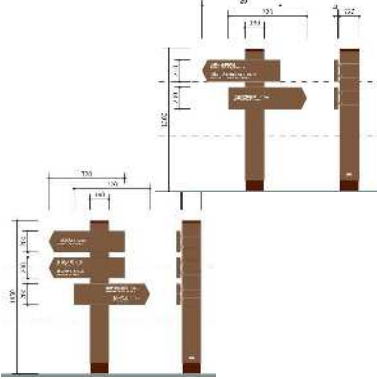
タイプ	現況		改修の方向性		
	現地状況	課題	イメージ	内容	QR表示・内容
園名サイン	新設	 ●適切な設置位置の検討・確認が必要 ●基礎形状等の条件確認が必要		■盤面 山崎・台峯緑地（縦書き） ※新設は既設と同タイプ ■材質 杉材 ※現況利用箇所については、必要に応じて再塗装 ■形状寸法 φ180 H1400 ※新設は既設と同タイプ	—
	現況利用	 ●本体塗装に劣化がみられるものについては、再塗装等の必要がある		—	
入口案内サイン	新設	 ●新規設置予定箇所が現在法面であるため、位置の検討及び平坦面の確保などの整備が必要 ●基礎形状等の条件確認が必要		■盤面 ・マップ ※最新情報に更新 ・注意事項 ※文字サイズ等 ・周辺公共交通機関 ・QRコード ■材質 本体：杉材 ※必要に応じて再塗装 ■形状寸法 W3050×H2050 ※新設は既設と同タイプ	◎ ・フィールドマップ ・ルート案内 等
	盤面改修	 ●情報の更新・追加 ・マップ情報の更新 ・QRコード追加 ・多言語（英語以外）対応 ●本体塗装に劣化がみられるものについては、再塗装の必要がある			
誘導サイン	新設	 ●適切な設置位置の検討・確認が必要		■盤面（矢羽根3枚or2枚） ・矢羽根① 台（西ノ台）方面、北鎌倉駅 ○○km など ・矢羽根② 南管理事務所 ○○km、谷戸の池 ○○km など ・矢羽根③ 山崎小入口 ○○m など ■材質 本体：杉材 ■形状寸法 φ180 H1450	△ ・QR表示を行う場合の目的・内容について
	盤面改修	 ●盤面改修内容（目的地の修正） ●支柱部に劣化がみられるものについては、再塗装等の必要がある			

表 3.4.2 QR コード

鎌倉中央公園（参考）					山崎・台峯緑地
コンテンツ	①トップ	②フィールドマップ	③みどころ	④クイズラリー	⑤フォトギャラリー
					
多言語対応	2か国語 ・日本語、英語				①トップ ・山崎・台峯緑地の紹介 ②フィールドマップ・ルート案内 ・山崎・台峯緑地を対象とする。 ・散策ルートの紹介（しっかり・軽く など） ③みどころ ・広場からの眺望 ・谷戸の池の景観 ・ヤマザクラ等の植生 ④クイズラリー ⑤フォトギャラリー ・広場からの眺望 ・谷戸の池の景観 ・ヤマザクラ等の植生 ⑥生き物紹介（案） ・山崎・台峯緑地内に生息する動植物の紹介 ⑦禁止事項等 ・禁止事項（既存マップ右上）や維持管理のルール（案）を追加
					○4か国語(案) ・日本語、英語、中国語、韓国語   （参考）滝野すずらん丘陵公園 （参考）豪徳寺

表 3.4.3 園名サインの素材比較

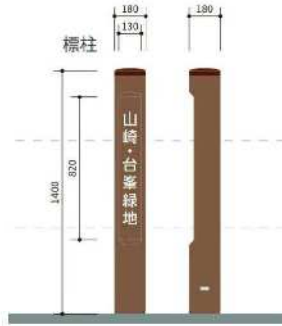
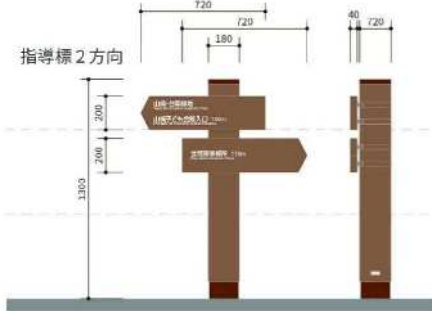
条件	デザイン：文字のみ											
タイプ	天然木				合成木材				コンクリート擬木			
イメージ												
規格	素材	天然木材(杉材)	参考形状	GLH800×φ110	素材	合成木材	参考形状	GLH1,400×φ180	素材	本体：鉄筋コンクリート 表示面： 7mm板UVカットフィルム 接着剤	参考形状	GLH1,650×φ200
景観性	◎ 自然景観になじむ素材であり、既設同等形状となる。 経年により1年程度でシルバーグレーへと変色する。 天然物のため形状加工自由度が高い。				○ 質感など、既設園名サイン（天然木）との整合性にやや劣る。 木材のような温かみある色合いと肌触りで自然空間との相性は良い。				△ 他案に比べてテカリや色味の質感が劣る。 肌目（色）については、くぬぎ・焼杉より選定が可能。			
耐久性	△ 参考耐久年数：5～10年程度（条件により短くなる） 耐候性をもたせるために防腐剤注入が必須。 湿度腐朽に弱く、湿潤地での使用は通常条件より耐久性が落ちる。 火やスプレーなどのいたづらをされた際に補修が不可。				○ 参考耐久年数：15～20年程度 文字の変更は不可。 頭部にキャップをつけることで端部劣化を防ぐ。 経年により文字が薄くなる恐れがあるが、再塗装可。				◎ 参考耐久年数：40年程度 文字の書き換え等は不可。 経年劣化により塗装が剥がれてくるため、定期的なメンテナンスを推奨。			
施工性	◎ 重量が軽く、施工が容易。				○ 重量が比較的軽いが、形状や施工条件によりクレーンが必要。				× 総重量151kg/基のため、運搬や施工が困難。 支柱/笠木/受木は現地組立でボルト連結の為施工が容易。 部材重量があるため、クレーン（ユニック車）等の重機が必要。			
経済性	◎ 製品費がやや高いが、軽量であり施工性が高く、運搬費等が安価である。				○ 製品費は比較的安価であるが、天然木よりも重量があるため、運搬費を含めた経済性で天然木に劣る。				△ 製品費は比較的安価であるが、重量があるため運搬を含めた施工費用がかかる。			
総合評価	◎ 耐久性・経済性はやや劣るが、景観性・施工性に優れ、既設園名サインと同様の素材であり調和が図れる。				○ 耐久性・経済性に優れるが、施工性がやや劣り、既設の園名サインとの質感の違いがある。				× 耐久性は高いが景観性にやや劣る。 重量があるため搬入・運搬を含めた施工性に難あり。			

表 3.4.4 誘導サインの素材比較

条件	2 方向											
タイプ	天然木				合成木材				コンクリート擬木			
イメージ												
規格	素材	天然木（杉材）	参考形状	GLH1,750×W1,720	素材	合成木材	参考形状	GLH1,300×W1,440	素材	鉄筋コンクリート 表示面： アミ板UVカットインジウムガラス	参考形状	GLH1,600×W1,500
景観性	◎				○				△			
	自然景観になじむ素材。 経年によりシルバーグレーへと変色する。 既設の天然木素材と調和する。				木材のような温かみある色合いと肌触りで自然空間との相性が良い。 既設の天然木素材との質感は異なる。				自然木の目（樹皮）から型枠制作し、自然木の風合いを表現。 他案に比べて色味の質感が劣る。 肌目（色）については、くぬぎ・焼杉より選定が可能。			
耐久性	△				○				◎			
	参考耐久年数：5～10年程度（条件により短くなる） 耐候性をもたせるために防腐剤注入が必須。 湿度腐朽に弱く、湿潤地での使用は通常条件より耐久性が落ちる。				参考耐久年数：15～20年程度 文字の変更は不可。 頭部にキャップをつけることで端部劣化を防ぐ。				参考耐久年数：40年程度 製品本体の耐久年数は約40年程度。 再塗装が可能のため使用頻度にもよるが20年程度で再塗装を行うことできれいな状態を維持可能。			
施工性	◎				○				×			
	重量が軽く、施工が容易。				重量が比較的軽い、形状や施工条件によりクレーンが必要。				支柱・板は現地組立て部材すべてボルト連結の為施工が容易。 部材重量があるため、クレーン等の重機が必要。			
経済性	◎				○				△			
	製品費および施工費が安価				製品費及据付費は天然木とコンクリート擬木の間程度				製品費及び施工費が高い			
総合評価	◎				○				×			
	耐久性はやや劣るが、経済性・景観性・施工性に優れるとともに、既設園名サインと同様の素材であり調和が図れる。				施工性がやや劣るものの、耐久性・経済性に優れる。 既設の園名サイン（天然木）との質感の違いがある。				耐久性が最も優れるが、景観性・経済性がやや劣る。 重量があるため搬入・運搬を含めた施工性に難あり。			

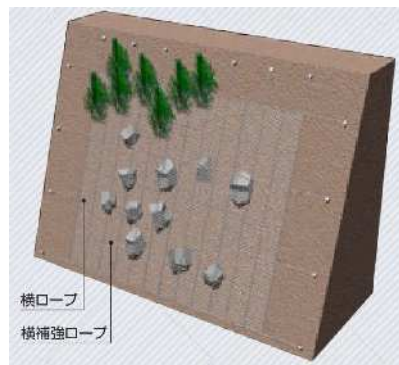
3.5 急傾斜地対策の整備

【整備方針】

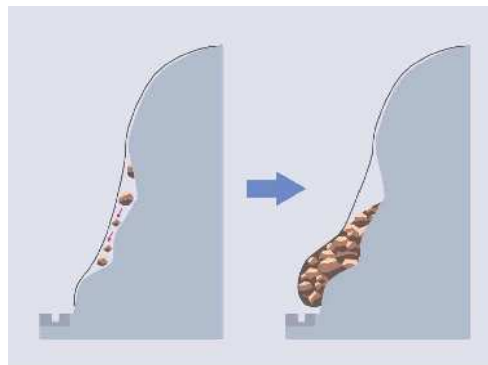
- 基本設計の方針に基づき測量調査を実施し、急傾斜地の落石防護対策範囲・工法を決定します。
- ※ 本緑地内においては以下のように一部の箇所では急傾斜地において、既に覆式落石防護網工法による落石防護対策が実施されています。



覆式落石防護網【既設】
（急傾斜地③西側箇所）



覆い式落石防護網イメージ



断面イメージ

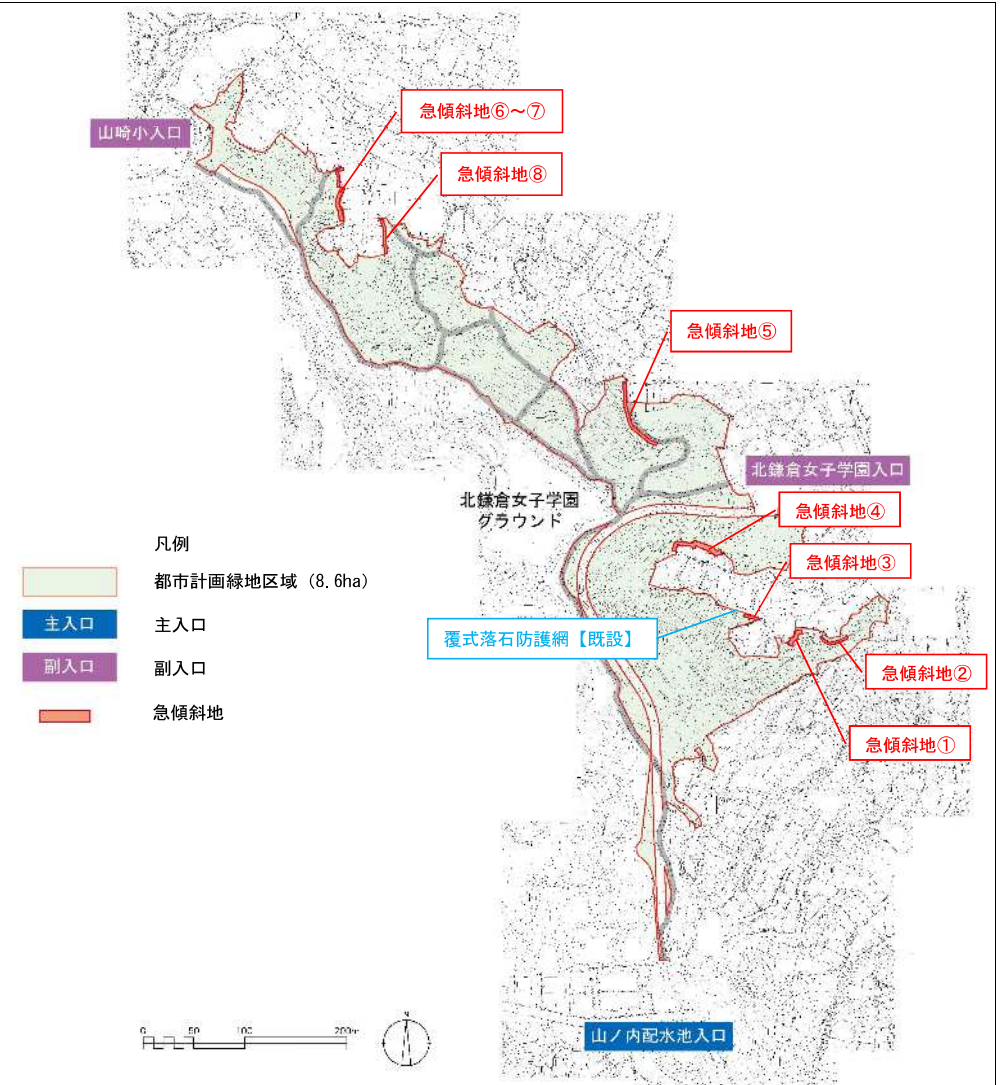


表3.5.1 急傾斜地の現況写真

			
急傾斜地① 土砂堆積による傾斜地	急傾斜地② 土砂堆積による傾斜地	急傾斜地③ 岩盤で形成された傾斜地	急傾斜地④ 岩盤で形成された傾斜地
			
急傾斜地⑤ 土砂・岩盤で形成された傾斜地	急傾斜地⑥ 土砂・岩盤で形成された傾斜地	急傾斜地⑦ 土砂・岩盤で形成された傾斜地	急傾斜地⑧ 岩盤で形成された傾斜地

【落石防護対策の工法比較・選定】

本緑地においては剥落や落下の危険性がある発生源をネットで覆うことで、園路や通路、民家への被害抑制を目的としていることから、主に以下の2つの工法が利用可能となります。
本緑地では、2つの工法で比較した場合、既に整備実績があり経済性の高い「覆式落石防護網工」が適していると考えられます。

表 3.5.2 落石防護対策工法比較表

工法名	覆式落石防護網工(1案)		ロープ伏工(2案)	
概要図				
特徴 構造	◆ 地山との結合力を失った岩石をネット自重と地山との摩擦・ネット張力により拘束する。 ◆ ネットと地山の間を斜面に沿って法尻まで誘導する工法である。 ◆ 溶融亜鉛めっきあるいはアルミ合金めっきを施しており、耐久性に優れている。 ◆ 台峯緑地内にて整備実績がある。		◆ ワイヤロープを法面に密着して張り、点在する浮石を押え込む落石予防工である。ある程度の大きな浮石の転落を防止し斜面を安定させる。また金網を併用すればより小さな落石も防止で ◆ 主に山間部での落石発生源対策に使用される。 ◆ 溶融亜鉛めっきあるいはアルミ合金めっきを施しており、耐久性に優れている。	
施工性	◆ 仮設足場は必要なく、施工器具も軽微である。 ◆ 金網のかかる範囲は伐採が必要。 ◆ 施工箇所の端部にのみアンカーを打設する構造のため、狭小地においても問題なく施工できる。	○	◆ 簡易索道(0.1t程度)、モノレールでの施工を基本とする。 ◆ 仮設足場は必要なく、施工器具も軽微である。 ◆ 樹木が障害となる場合は、現場加工による適正部材を使用することで対応でき、伐採は最小限に留めることができる。 ◆ 第1案に比べてアンカー・ロープの数量が多いため、若干施工期間が長くなる。	△
景観性	◆ ワイヤーや金網などを塗装することで、周辺の緑地となじむ色合いとすることが可能である。 ◆ 網の掛かる部分では伐採が必要。	○	◆ ワイヤーや金網などを塗装することで、周辺の緑地となじむ色合いとすることが可能である。 ◆ 網の掛かる部分では伐採が必要。	○
維持管理	◆ 部材が破損した場合には補修であるが、補修は容易である。	○	◆ 部材が破損した場合には補修であるが、補修は容易である。	○
経済性	■ 覆式落石防護網工 H= 10.0m L= 100.0m 1,000.0㎡ × 15,000 円/㎡= 15,000,000 15,000,000 (1.00)	○	■ ロープ伏工 H= 10.0m L= 100.0m 1,000.0㎡ × 25,000 円/㎡= 25,000,000 25,000,000 (1.67)	△
総合評価	対象地周辺における実績があり、施工性・景観性・経済性に優れている。		維持管理はしやすいものの、施工性や経済性が覆式落石防護網工に劣る。	
	○		△	

3.6 全体計画図

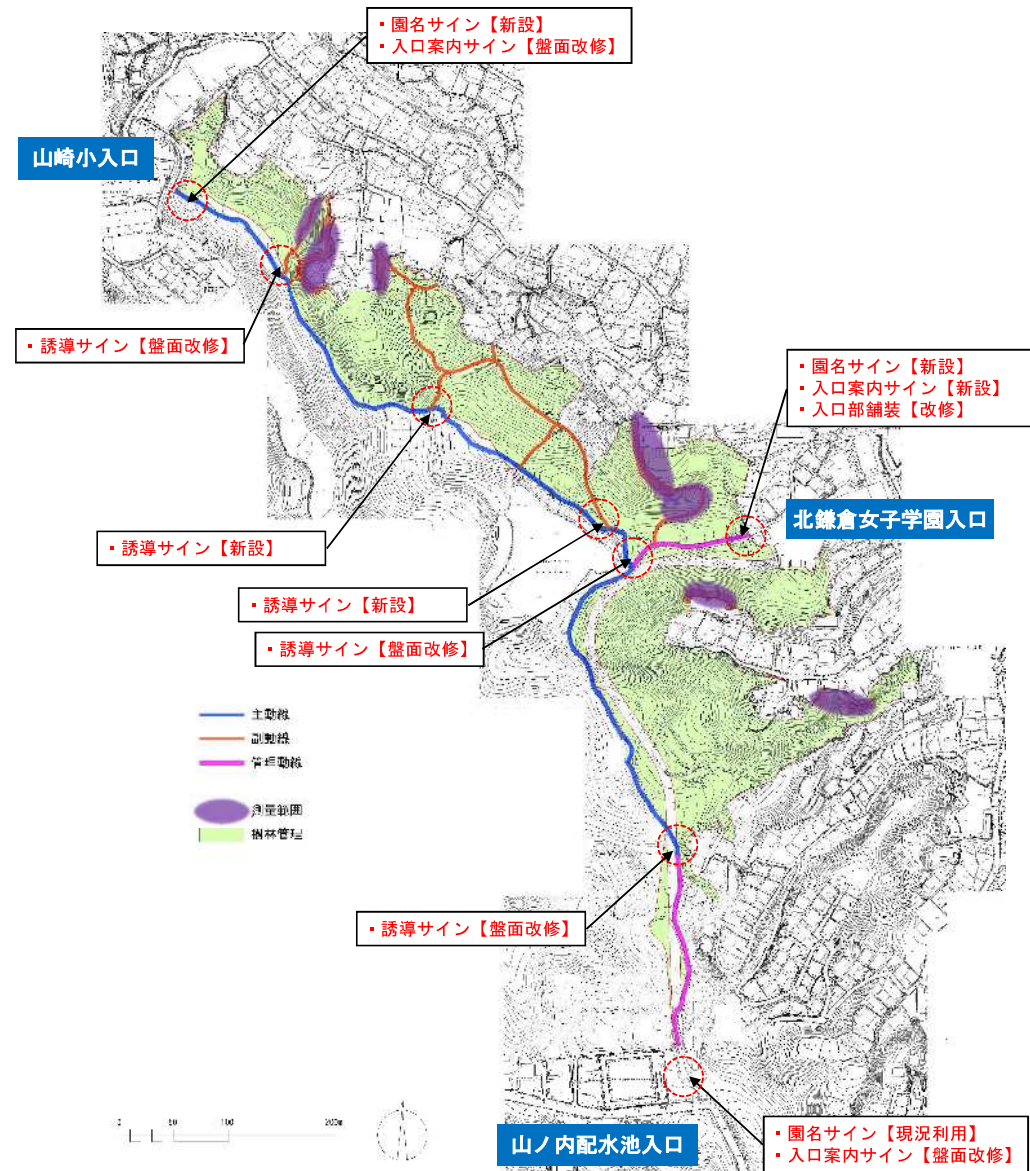


図3.6.1 全体計画図

3.7 維持管理方針の検討

【維持管理方針】（基本設計より） ● 市とボランティア団体と指定管理者の三者協議の体制づくりを検討します。 ● 三者協議では、基本構想や基本計画の考え方にに基づき、具体的な維持管理等の内容について話し合います。 ● 供用開始前に、自転車や二輪車の通行条件を整理します。 【維持管理の項目例】 （基本計画の「樹林地等の保全管理」参照） ① 斜面樹林の保全管理 ・ 傾斜木の伐採 ・ 林床の下刈り ・ 古竹の除伐 等 ② 耕作放棄地の環境再生 ・ 草刈り 等 ③ 尾根道の樹林地の保全管理 ・ 林床の下刈り ・ 眺望地点の、視線を妨げる樹木の枝払い 等 ④ 桜の古木の保全 ・ 踏圧防止 ・ 被圧木の枝卸しや除伐 等 ※ 現在、鎌倉市で例年実施している維持管理は、散策路沿いや外周部の枯損木等の除去や下草刈りをみどり公園課で発注しています。こちらは引き続き実施していく予定です。	【維持管理方針】で示している三者協議の体制づくりとして、（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会を設立するため、準備会を開催しています。 ■（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会 <table border="1"> <tr> <td>①名称</td><td>（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会 準備会（第1回目）</td></tr> <tr> <td>②開催日時</td><td>令和7年（2025年）10月14日（火）14時～16時</td></tr> <tr> <td>③出席者</td><td>鎌倉市、市民団体（2団体）</td></tr> <tr> <td>③主な議題</td><td>準備会の概要説明、維持管理に関する意見交換</td></tr> <tr> <td>④開催写真</td><td>  </td></tr> </table> 【今後の協議事項（案）】 ・ 連絡会設立に向けた規約や作業要領の整理 ・ 保全管理ゾーニング（案）を基に役割分担等の詳細を協議 ※今年度策定予定の実実施設計や山崎・台峯緑地に関する情報は当準備会内で情報共有し、都度意見を伺う予定	①名称	（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会 準備会（第1回目）	②開催日時	令和7年（2025年）10月14日（火）14時～16時	③出席者	鎌倉市、市民団体（2団体）	③主な議題	準備会の概要説明、維持管理に関する意見交換	④開催写真	
①名称	（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会 準備会（第1回目）										
②開催日時	令和7年（2025年）10月14日（火）14時～16時										
③出席者	鎌倉市、市民団体（2団体）										
③主な議題	準備会の概要説明、維持管理に関する意見交換										
④開催写真											

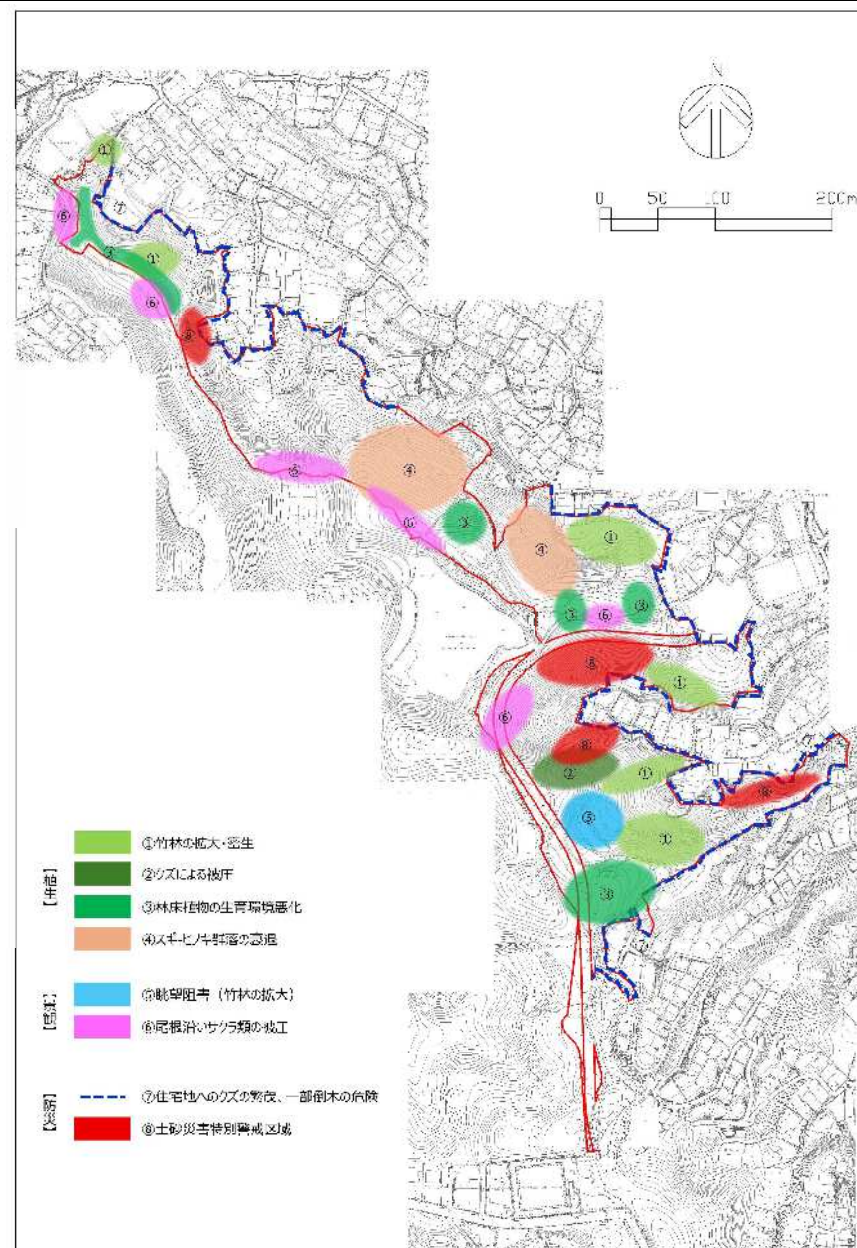
【維持管理計画】

（１）現況課題の整理

維持管理を行う上での現況課題を以下に示します。

表3.7.1 現況課題の整理

【植生】	① 竹林の拡大・密生	竹林がエリア全体拡大し、周辺の植生にとって代わっている。住宅境界など林縁部に侵入し住宅に倒れかかるなど住宅地への危険性が増大している。管理放棄により幹が密生している。	
	② クズ等による被圧	アカメガシワ・カラスザンショウ群落が広範囲にクズ等に覆われ、樹木の遷移が進まなくなっている。	
	③ 林床植物の生育環境の悪化	アズマネザサやクズなどの繁茂、竹林の拡大により、希少な林床植物の生育環境が減少している。	
	④ スギ・ヒノキ群落の衰退・遷移	一部のスギ・ヒノキ群落が疎林になり、その隙間に落葉広葉樹が生育している。	
【景観】	⑤ 展望地からの眺望の阻害	アズマネザサ群落が竹林にとって代わったことで展望地からの眺望が阻害されている。	
	⑥ 尾根沿いのサクラ類の被圧	周辺の樹木の生長により、景観を特徴づける尾根沿いのサクラ類が被圧されている。	
【防災】	⑦ 住宅地境界部の倒木の危険性	住宅境界部の高木や竹林は、倒木により住宅に被害を及ぼす恐れがある。また、クズ類などの繁殖により住環境に影響を及ぼす恐れがある。	
	⑧ 土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の一部が土砂災害特別警戒区域に指定されており、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある。	

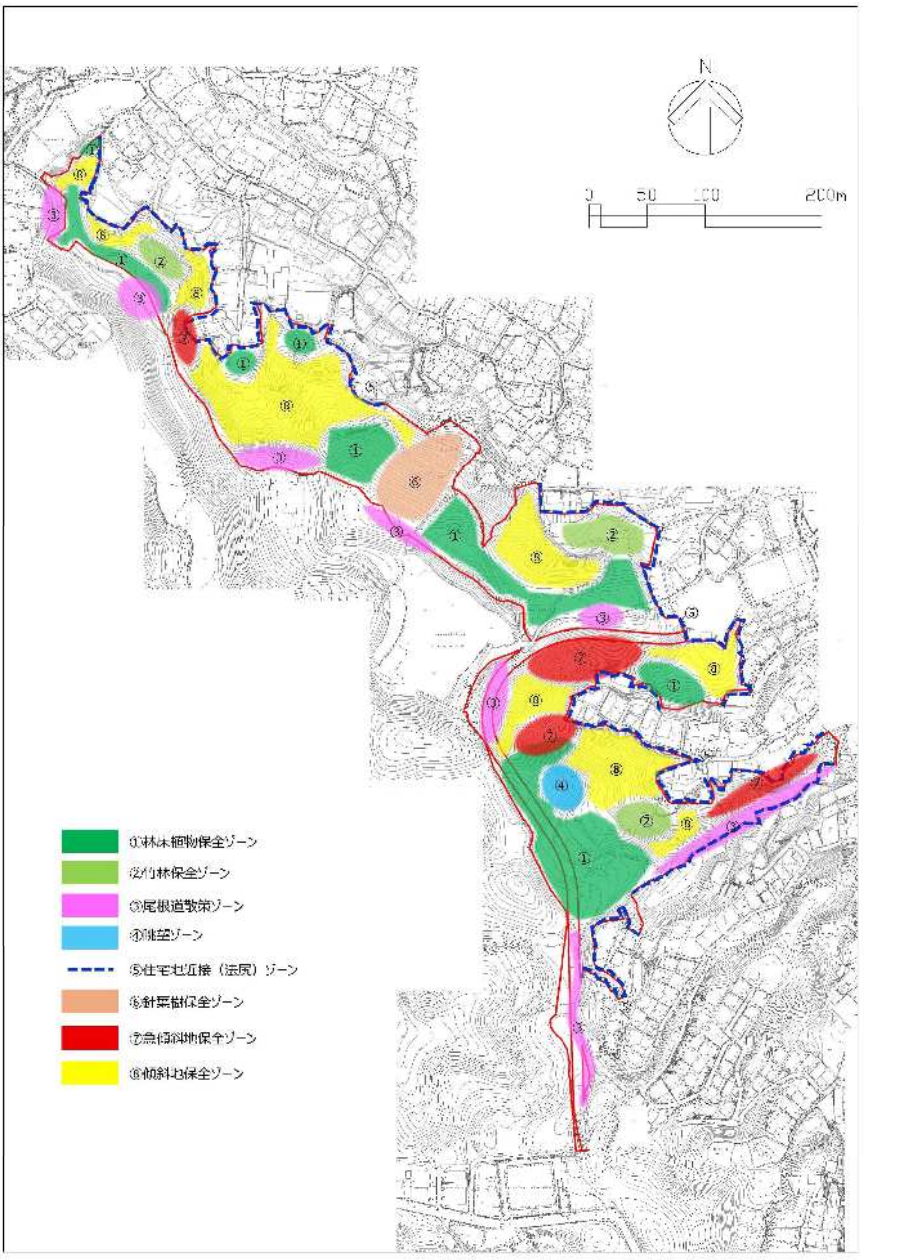


(2) 保安全管理ゾーニング（案）

現況課題を踏まえ、今後維持管理を行う上での保安全管理ゾーンとして①～⑧の区域を設定します。

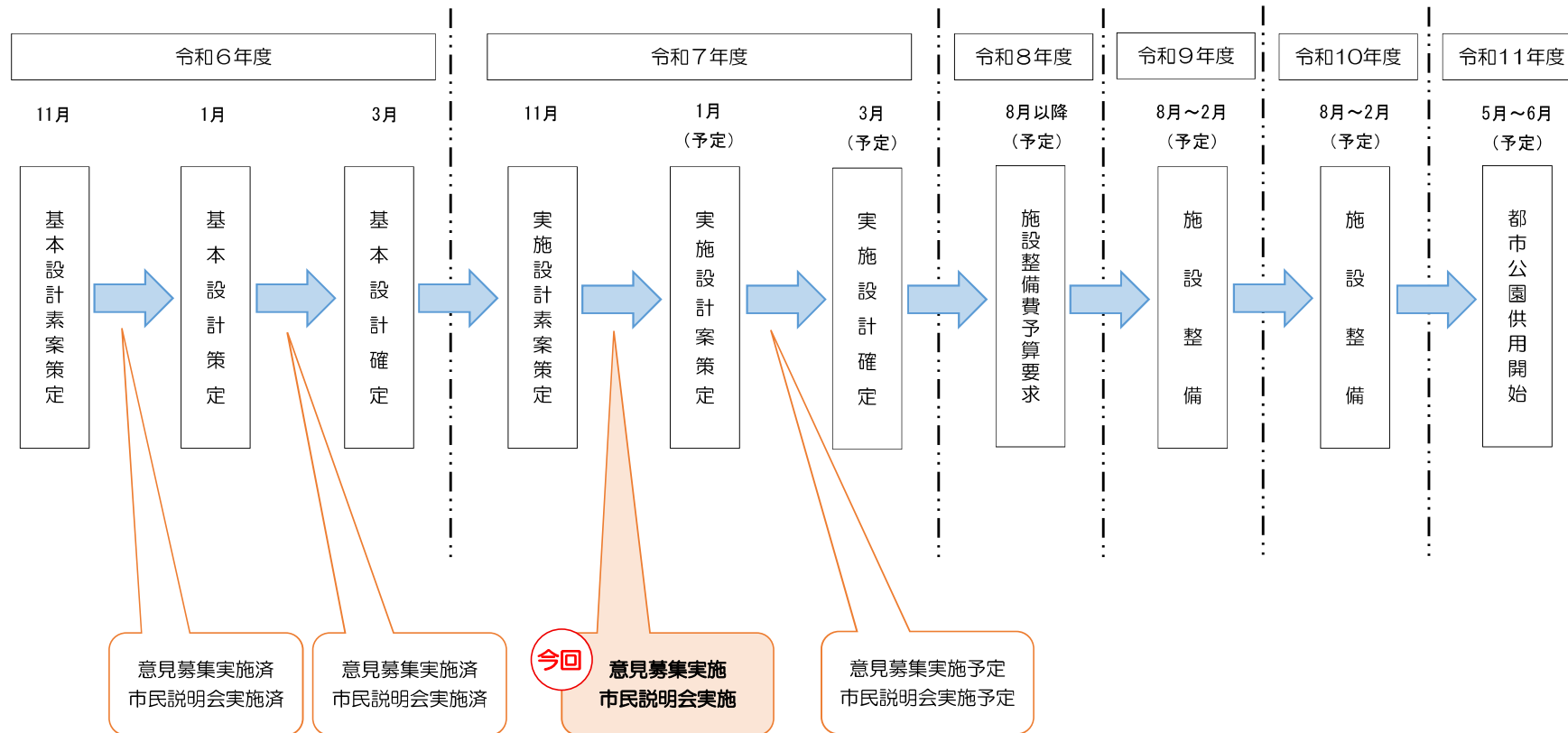
表3.7.2 保安全管理ゾーニング（案）

ゾーン	方針	維持管理
①林床植物 保全ゾーン	希少な林床植物の生育環境の保全（市民活動による自然環境の維持管理）	・尾根沿いを中心とした緩勾配の樹林（オニシバリ-コナラ群落）やアズマネザサ群落（竹林に変化）については市民活動の場として提供し、市民による自然環境の維持管理を行い、里山の自然環境の保全を図る。 ・希少な林床植物が生育するスダジイ-コナラ群落、オニシバリ-コナラ群落は常緑樹伐採、アズマネザサの除草により、生育環境の保全を図る。 ・アズマネザサ群落は樹林地へ転換を図る。 ・アカメガシワ-カラスザンショウ群落を被圧しているクズを除去する。 ・疎林化が進行するスギ-ヒノキ群落は、広葉樹林化を図る。
②竹林保全 ゾーン	竹林の適切な管理	・竹林の拡大で衰退した植物群落の保全及び住宅地の安全確保のために、拡大しつつある竹林を早急に伐採することで既存の植物群落の保全を図る。 ・竹林はタケノコの収穫などの活用が考えられることから、管理できる範囲を設定し、維持管理を行う。
③尾根道散 策ゾーン	散策のための尾根道の視界の確保・サクラの保全	・尾根道からの視界を遮るアズマネザサや低木類等を刈払い、尾根道沿いの視界を確保することで、散策が楽しめる空間を創出する。尾根道沿いのサクラ類周辺樹木の刈払いによってサクラ類の保全を図る
④眺望ゾ ーン	展望地からの眺望の回復	・竹林により遮られている展望地からの眺望を回復するため、竹林から低茎のススキ群落等に転換する。 ・アカメガシワ-カラスザンショウ群落を覆うクズ等のツル切りを行う。
⑤住宅地近 接（法尻）ゾ ーン	接する住宅地の安全の確保及び住環境への配慮	・対象地に接する竹林の伐採、樹木やクズなどの草本の適切な維持管理により、住宅地の安全の確保及び住環境の維持を図る。
⑥針葉樹保 全ゾーン	適切なスギ-ヒノキ群落の保全	・広葉樹が混交していない斜面部のスギ-ヒノキ群落は健全なスギ・ヒノキを活かし、高木層、草本層の2階層の植生を目指す。
⑦急傾斜地 保全ゾーン	土砂災害の防止	・植生遷移に委ねることを基本とするが、急傾斜地の崩壊等が発生しないように、他の斜面林よりも重点的に巡視管理を行う。
⑧傾斜地保 全ゾーン	疎放管理	・巡視管理程度に留め植生遷移に委ねることを基本とし、倒伏の恐れのある樹木は適宜伐採する。



3.8 事業スケジュール

◇山崎・台峯緑地（都市緑地）事業スケジュール



※素案及び案策定時には市民説明会及び意見募集を実施します。

※山崎・台峯緑地の維持管理に携わっている市民団体には、別途準備会内で情報共有及び意見を伺います。